

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	伊万里市立啓成中学校
-----	------------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上：学校全体が学力向上についての気運が高まっているので、次年度も今年度の取り組みを継続していきたい。また、家庭との連携を図り、家庭での学習時間1時間未満を20%以下にすること、0時間をなくし、更なる学力向上を目指したい。 業務改善・働き方改革の推進：データの共有や業務内容の改善を行うとともに、職員のタイムマネジメント力の向上が課題である。また、超勤時間の削減のために、定時退勤日の設定と実行をめざしたい。 開かれた学校づくり：コミュニティ・スクールをとおして、地域・保護者・学校が連携を図り、教育環境を充実させることで、生徒指導面と学習指導面をさらに向上させていきたい。
---------------	--

2 学校教育目標	『互いの心を響き合わせ、みんなで成長する～響成の啓成Creation～』
----------	--------------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導面：「みんなの学校・みんなで活動づくり」を通して、生徒同士が共に助け合い、響き合う仲間であることの意識を高め、互いの成長を喜び心を育てる。また、お互いが支え合い、認め合い、高め合えるような活動を重視し、生徒の持てる能力を最大限に発揮させる。 学習指導面：「みんなの授業づくり」を通して、基礎学力の定着を図り、共に学ぶ意識を向上させ、互いに認め高め合う学習集団をつくる。また、学力を高めるとともに、自尊感情や自己有用感を高めることで、進路保障につなげる。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	学校関係者評価 意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・全職員で、学力向上対策シートにおける本校の実態とマイプランを共通理解・共通認識することで学力向上に取り組む。 ・生徒による授業アンケートを年2回実施し、その結果をもとに授業改善に取り組む。	B	・校内研究会において、タブレット等の活用方法の研修を行ったり、授業研究会の際、講師を招いて助言をいただいたりした。教科部会を開き学習状況調査と生徒アンケートの分析などを行い、分かる授業の実践に努めた。 ・学習状況調査の結果から、授業から家庭学習への結びつきのある取り組みが課題であった。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は83.4%で目標に届いた。 ・授業において、ICTの活用によりめまめめやすしい授業実践に取り組んだ教師は83.3%であったが、第一回のアンケートと比べて4.2ポイント低下していた。	B	・保護者と教員の評価のずれが大きい。スマホ、ゲームで大切な学習時間を奪われていることに親の危機感が不足していると感じた。小中までは、読み書き・ソロバン・基礎学力、生活習慣の力をしっかりと身に付けることが大事と思う。これが学力につながる。	◎学力向上C ◎研究主任
	○(学校独自重点取組・任意)授業と連動した家庭学習の充実	○(学校独自成果指標・任意)生徒アンケートにおいて、家庭学習時間が1時間未満の生徒20%以下、0時間の生徒をなくす。	○(学校独自成果指標・任意)生徒アンケートにおいて、家庭学習時間が1時間未満の生徒20%以下、0時間の生徒をなくす。	・全学年で自主学習等の課題に取り組む。家庭学習の充実を図り、家庭学習の習慣化と学習内容の定着を図る。	B	・7月の生徒アンケートでは、家庭学習1時間未満の生徒が38%と、十分な取り組みができていない。学習の仕方以外にも、進路指導や教育相談など様々なアプローチで生徒の意欲の喚起に繋げたい。	B	・家庭学習をほぼ毎日行っている生徒の割合が1.2%から18.7%に上がった。しかし、12月の生徒アンケートでは、家庭学習1時間未満の生徒が33%と前回よりもよくなってきたが、目標までは到達できていない。	B	・家庭学習の時間は増えているようだが、単に時間だけを増やすだけでなく、生徒と保護者の取り組み方について指導・助言を行うことで、さらに良くなると思う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒アンケートにおいて、思いやりの項目「人の気持ちがわかる」80%以上	・「特別な教科 道徳」の授業や人権・同和教育を充実させる。	B	・各学年で道徳の授業実践に努めている。ふれあい道徳において生徒と保護者と一緒に考えて考えることができた。保護者のアンケートにも好意的な意見が多かった。しかし、保護者の中で生きてはまらない回答が9%あったことは課題にしたい。 ・人権週間には生徒会による読み聞かせを行い、人権について考える機会を作った。	B	・生徒の結果を見ると、1回目より肯定的な回答が増えた。それは、教師側が計画的に道徳教育や人権教育を進めた結果と思われる。また、保護者の中で「全く当てはまらない」回答も3%に減った。本年度は、更に道徳教育と人権教育の充実を図り、学校全体で取り組んでいきたい。	A	・各生徒は、相手の良いこと、良くない事について、理解できる力は身につけていると思う。 ・読書やTVニュース、新聞を見て世の中の動きを知り、感じ、考える力を向上させ人と話すコミュニケーション力を高めることが求められていると感じる。核家族の中で家庭教育力と地域見守り高めることが大切だと思う。	◎道徳教育推進教員 ◎人・同教育 ◎各学年主任
	●いじめの未然防止、早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止のための取組、いじめ対策対応等)について組織的な対応ができていないと回答した職員80%以上	・生徒との積極的な関わりや生活アンケート、定期教育相談等を通して、共通理解・情報共有を行い、組織的な対応を充実させる。	B	・おおむね落ち着いた学校生活を送ることができた。いじめアンケートや教育相談アンケートなどを通して、生徒の実態を把握し、いじめや生徒の困りに素早く対応することができた。 ・事故が発生した場合は、迅速に管理職・学年主任・担任と連携を図るとともに、再発防止に向け組織的に取り組むことができた。	B	・生徒の学校評価アンケートから見ると、他者への関わりに関する項目が1回目調査より2回目調査の方が良くなった。子どもたちに規範意識が高まったことが考えられる。その背景には、学級担任や学年担当教員の日頃からの声掛けや教育相談的生徒支援が取り組めた結果である。	A	・いじめについては、取り上げる内容が些細なことまで含めるなど広範囲になったことで、内容をよく知らないものから見れば毎年増えている印象があり、学校運営協議会で説明あった「いじめについての」内容を保護者会や地域の集會等で、機会を見つけて講演を行ってほしい。	◎生徒指導主事 ◎各学年主任
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○欠席者・遅刻者の理由を把握し、新たな不登校生徒の発生0人を目指す。	・毎日の健康観察で、欠席者・遅刻者の把握と理由の確認を行うとともに、職員間で情報共有することで不登校生徒の早期発見・予防に努める。	B	・毎日の健康観察等、各学年職員間で情報共有しながら対応し、SC・SSWと連携できている。今後はSCや専門機関につなげていく。 ・11月までの生徒の交通事故件数は0件となっている。引き続き継続して交通安全を意識させる。 ・不審者対応や防災訓練を実施し、危機対応能力を身に付けさせることができた。	B	・各学年、心身ともに心配な生徒に対して情報共有しながら対応し、SC・SSWと連携できている。 ・4月までの生徒の大きな交通事故は0件ではあるものの、自転車等の交通ルールを遵守できなかった生徒が数名確認されている。生徒指導をはじめ、様々な先生と共通理解しながら指導・実践に取り組む。	A	・食生活は重要です。給食は大きな役割を果たしている。朝食を必ず摂らせる。 ・コロナ禍の中にあつて、学校職員、生徒自身しい中にもそれぞれ、部活動をはじめ下校後の姿から、よく工夫した取り組みができていたと思う。	◎教育相談担当 ◎養護教諭
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0件を目指す	○感染症罹患率を10%以下に押さえる。	・現在、感染症、特にコロナウイルス感染症罹患率が約10%なので、今後感染者数が増加しないよう予防対策を徹底させる。	A	・現在、感染症、特にコロナウイルス感染症罹患率が約10%なので、今後感染者数が増加しないよう予防対策を徹底させる。	C	・感染症罹患率は25%を超えてしまい、予防対策の徹底ができていなかった。来年度以降の課題になる。	B	・コロナ禍の中、努力と工夫がなされて、改善が進んでいると思われます。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定(毎週水曜日)として実行する。 ・部活動休業日(第3日曜日・毎週水曜日)を実行する。	B	・12月までの超勤時間の月平均は、47時間14分であった。これまでに以上定時退勤促進により積極的に行う必要がある。 ・部活動休業日は実行できたが、部活動休業日の定時退勤に個人差として課題が残る、実行できなかった。	B	・4月から12月までの全職員の平均値は44時間であり、時間外勤務時間は月45時間を1時間下回っていた。職員の中には70時間を超える者もあり、部活動指導の軽減などで業務の平準化を図る必要がある。 ・コロナ禍の中、部活中止になる期間が多かったことで、業務が勤務時間内で収まることが増えた。	B	・部活動の外部委託が始まろうとしているが、この機会を捉え、今の業務について改善できないか意見交換を教職員が一丸となって行ってほしい。	◎管理職
	○多忙感の解消	○職員の協働意識と同僚性を高め、業務の効率化と役割分担を行い、多忙感解消とを感じる職員70%を目指す。	・職員会議等で指導するだけでなく、外部人材による研修を実施する。	B	・定時退勤日の確実な実施ができていなかったが、個人でのタイムマネジメントの意識の向上は図れた。 ・事務職員との連携で、会計処理の効率化を図ることができた。	A	・コロナの状況によって学校行事等の実施、延期が左右され、時期により偏りがあった。規模や開催条件を変更しても実施するものとそうでないものを精選することができた。 ・授業での活用等タブレットを使用する機会が増えた。その工夫には時間を要した。	A	・部活動の存在が新たな課題です。 ・新年度5月に5期に引き下げられる中で、ウイズコロナをどう工夫していくか大きな課題だと思う。	◎管理職 ◎教育情報化推進リーダー

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	学校関係者評価 意見や提言
○地域に開かれた学校づくり	○コミュニティスクールをとおした、地域・保護者と連携した開かれた学校づくり	○(学校独自成果指標・任意)学校評価アンケートで、地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる75%以上を目指す。	・PTA活動や、学校運営協議会をとおして、地域と連携した活動を積極的に行う。	A	・コロナ禍の中でも工夫して行事を行い、できる限りの開かれた学校づくりに取り組んだ。 ・学校運営協議会を通して、学校が抱える課題等について共通理解を図ることができた。	A	・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、小・中合同での行事を実施。生徒共に協力した活動ができ、入学後見えた入り入れ活動となる交流することができた。 ・職員とのC・SIについての理解で、まったくあてはまらない数値が0となり、意識が高まったが、さらに職員への周知を高める必要がある。	A	・コロナ禍でいるいると制約、制限があり思うような行事が出来なかったが、今後の新型コロナウイルス感染症状況によっては、従前にできたことができるようになればと期待する。 ・コロナ禍の中で地域との交流が限られたり、中止されたりしていると思う。新年度5月に5期に引き下げられる中で、ウイズコロナをどう工夫していくか大きな課題だと思う。 ・地域との連携は、今後ますます増えていくと思うので、学	◎管理職
○信頼される教職員としての意識の向上	○教職員としての高い倫理観と規範意識の向上	○組織の一員であることの自覚と日常におけるコンプライアンス意識を強化するとともに、服務規律坚持100%を目指す。	・職員会議等で指導するだけでなく、外部人材による研修を実施する。	B	・夏季休業中に校内研修で、西部教育事務所指導主事による研修を実施した。常に、コンプライアンス意識を高くもち、不祥事を目標にした。また、いじめの問題等についての研修を行い、未然防止に努め、保護者との連携にも努めることを確認した。	A	・全職員で問題行動をはじめ、様々な対応が丁寧であるという保護者の回答が80%弱であった。 ・通報と印鑑の管理を担当者と事務長に分けることで、公金の取り扱いを公明にした。	A	・生徒たちが信頼な出来事でも、教師側に話せる雰囲気と環境作りが大切と思う。 ・コロナ禍、そして、様々な思いもしい事件が多発している中で、ご苦労様です。引き続き、保護者と学校、そして、地域が連携して伊万里の子供達の成長を見守り、応援していきたい。 ・生徒一人ひとりの成長については、保護者ももとより地域も楽しみにしている。 ・今でも忙しと思うが、学社連携を深めるため、地域行事に参加することを検討してはどうか。	◎管理職

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・学力の向上の項目ではマイプランの成果指標を達成できた職員が増え意識した授業実践に繋がっている。学習状況調査の結果も学年・教科によっては、県の正答率を上回り良好な結果となった。観点別では落ち込みが見られる教科も見られるので分析して授業に生かすことが必要である。 ・心の教育の項目では道徳教育、人権・同和教育ともに、充実した教育活動が展開できた。いじめの早期発見・早期対応体制の充実については、生徒の95.1%がいじめのない学校づくりを肯定的にとらえている。自分の夢や進路について考えるようになった生徒が増加した。今後とも将来設計や意思決定能力を向上させる手立てを講じていきたい。 ・業務改善・働き方改革の項目では、コロナ禍の中ではあったが職員の平均で時間外勤務時間は月45時間を1時間ほど下回った。学校行事等の規模や開催条件を変更しても実施するものとそうでないものをしっかりと精選し、加えてタブレット等のICT機器の効果的活用についてさらに検証していく必要がある。 ・地域とともにある学校づくりの項目では、地域に向向活動は制限されたが、地域人材の活用など感染対策を十分に行いながら地域連携の取組を実施することができた。次年度もコロナの状況に合わせて実施する活動を増やしていきたい。
----------------	---